

科目名	職務の理解			
到達目標	○研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもっと実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
指導の視点	○研修過程全体(130時間)の構成と各研修科目(10科目)の相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ○視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。			
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等
多様なサービスの理解	6.0	6.0	-	・介護保険による居宅サービス ・介護保険による施設サービス ・介護保険外のサービス
介護職の仕事内容や働く現場の理解			-	・介護サービスを展開する現場の実際 ・介護サービスの提供に至るまでの流れ ・介護過程とチームアプローチ

科目名	介護における尊厳の保持・自立支援			
到達目標	○介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。			
指導の視点	○具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ○具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ○利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ○虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等
人権と尊厳を支える介護	6.0	1.5	7.5	・人権と尊厳の保持 ・ICF ・QOL ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止
自立に向けた介護				3.0

科目名	介護の基本			
到達目標	○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ○介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。			
指導の視点	○可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ○介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等
介護職の役割、	6.0	3.0	3.0	・介護環境の特徴
介護職の職業倫理				・専門職の倫理の意義 ・介護福祉士の倫理
介護における安全の確保とリスクマネジメント				・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・感染対策
介護職の安全				・介護職の心身の健康管理 ・感染予防

科目名	介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
到達目標	○介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。			
指導の視点	○介護保険制度・障害者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ○利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援制度、その他の制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等
介護保険制度	9.0	1.5	7.5	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景および目的、動向 ・介護保険制度のしくみの基礎的理解 ・制度を支える財源、組織・団体の機能と役割
医療との連携とリハビリテーション				<ul style="list-style-type: none"> ・医行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーション
障害者自立支援制度およびその他の制度				<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉制度の概念 ・障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解 ・個人の人権を守る制度の概要

科目名	介護におけるコミュニケーション技術			
到達目標	○高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき(とるべきでない)行動例を理解する。			
指導の視点	○利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ○チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等
介護におけるコミュニケーション	6.0	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際
介護におけるチームのコミュニケーション				<ul style="list-style-type: none"> ・記録における情報の共有化 ・報告・連絡・相談 ・コミュニケーションを促す環境

科目名	老化の理解			
到達目標	○加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
指導の視点	○高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等
老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	6.0	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・老化と老年期 ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
高齢者と健康				<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の症状・疾患の特徴 ・高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点

科目名	認知症の理解			
到達目標	○介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。			
指導の視点	○認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ○複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等
認知症を取り巻く環境	6.0	3.0	3.0	・認知症のケアの理念 ・認知症ケアの視点
医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理				・認知症の概念 ・認知症の原因疾患とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント ・健康管理
認知症に伴うこととからだの変化と日常生活				・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の人への対応
家族への支援				・家族へのレスパイトケア ・家族へのエンパワメント

科目名	障害の理解			
到達目標	○障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。			
指導の視点	○介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ○高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等
障害の基礎的理解	3.0	1.5	1.5	・障害の概念とICF ・障害者福祉の基本理念
障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識				・身体障害 ・知的障害 ・精神障害 ・発達障害 ・難病
家族の心理、かかり支援の理解				・家族の理解と障害の受容支援 ・介護負担の軽減

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術			
到達目標	○介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ○尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活			
指導の視点	○介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識と介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ○サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ○例えば『食事の介護技術』は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ○「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。			
授業項目	時間数	通学	通信	
			目標・講義内容・学習課題の概要等	
【介護に関する基礎的理解】				
介護の基本的な考え方	12.0	7.5	4.5	・理論に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護
介護に関するこころのしくみの基礎的理解				・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因
介護に関するからだのしくみの基礎知識				・生命の維持・恒常のしくみ ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識
生活と家事	51.0	48.0	3.0	・生活と家事の理解 ・家事援助に関する基礎知識と生活支援
快適な居住環境整備と介護				・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用
整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護				・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術
移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護				・移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ・利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 ・移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援
食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護				・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 ・楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援
入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護				・入浴・清潔保持に関連する基礎知識 ・入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法
排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護				・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法
睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護				・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法
死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護				・終末期に関する基礎知識 ・生から死への過程 ・「死」に向き合うこころの理解 ・苦痛の少ない死への支援
【生活支援技術演習】				
介護課程の基礎的理解	12.0	12.0	-	介護課程の目的・意義・展開 介護課程とチームアプローチ
総合生活支援技術演習				事例の提示 →こころとからだの力が発揮できない要因の分析 →適切な支援技術の検討→支援技術演習 →支援技術の課題
授業時間数合計	75.0	67.5	7.5	

科目名	振り返り			
到達目標	<p>研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。</p> <p>研修を通じて学んだこと、今後も継続して学ぶべきことを演習をととして受講者が気づき、利用者の生活を支援する介護ができる。</p>			
指導の視点	<p>介護に係る者として基本的態度について理解を促す。</p> <p>研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを受講生自身に言語化させ、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。</p> <p>介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の事例等について、具体的なイメージを持つことができるように促す。</p>			
授業項目	時間数	通学	通信	目標・講義内容・学習課題の概要等
振り返り	2.0	2.0	-	<p>研修を通して学んだこと、今後継続して現場で学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点についてをグループワークを通じて振り返る</p> <p>介護職としてのさまざまな働き方を現場の介護職から聞くことで、自らの働く姿をイメージし、キャリアプランにつなげる。</p> <p>継続的に学ぶべきこと</p> <p>研修修了後における継続的な研修について具体的にイメージができるような事例の紹介(Off-JT、OJT)</p>
授業時間数合計	4.0	2.0	-	